



2019.2.1

えんしゅうびょういん 情報紙

超音波検査の色々② 【担当:臨床検査科】

腹部超音波検査

- ・肝臓、胆のう、膵臓、腎臓、脾臓を中心に観察し、**形態(かたち)の異常や腫瘍(できもの)がないか**調べます。
がん発見の第一歩になる場合もあります。

<よく見かける所見>

脂肪肝、胆石、胆のうポリープ、肝のう胞、腎のう胞、腎結石など



検査時に息を吸って止めたり、息を吐いて止めたりしているけど、何のため？

体の中がより良く見えるように、患者様へ呼吸の調節をご協力頂いています。
時にはできるだけ大きく息を吸ってもらったり、お腹を押さえたりしますが、
可能な範囲でご協力お願いします。

心臓超音波検査



- ・心臓は常に拍動していますが、その動いている状態を超音波検査ではそのまま観察することができます。
- ・**心臓の大きさや壁の厚さ、動き、弁の形態、血液の流れる方向や速さ**も観察します。

<主にわかる病気>

心筋梗塞、心筋症、弁膜症、心不全、先天性心疾患など

乳房超音波検査

- ・乳腺の中に**腫瘤(できもの・しこり)**がないか調べます。
触診では解りにくい小さな病変も見つけることができます。
腫瘤には良性と悪性があるので、超音波で腫瘤の特徴を
観察し診断に役立てます。

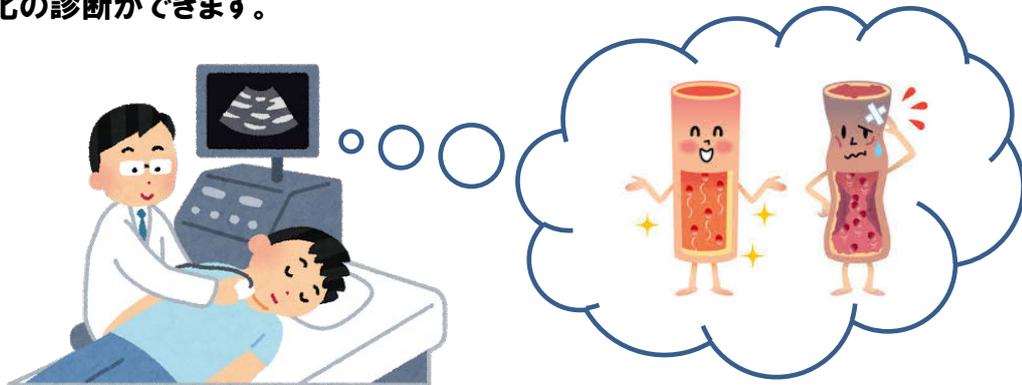


マンモグラフィーとエコーどちらの検査がいいの？

- どちらの検査も得意・不得意があります。
エコーは**腫瘤(できもの・しこり)**を見つけることは得意ですが、マンモグラフィーで見つかる
石灰化がわかりにくい事があります。
病院では医師が必要な検査をオーダーしています。

頸動脈超音波検査

- ・頸動脈は脳につながる大切な血管で、動脈硬化の好発部位です。
動脈硬化を起こすと血管壁が厚くなり、内部が狭くなります。
さらに進行すると、血管がつまってしまいます。
そのような**血管の状態を直接観察**し、血液の流れている状態を確認する事で、視覚的に
動脈硬化の診断ができます。



今回は主な超音波検査についてご紹介しました。
他にも超音波検査は、**体の多くの部位を検査**しています。
病気には自覚症状のないものもあり、超音波検査を受ける
ことで、様々な病気を早期に発見できるかもしれません。

【編集:ふれあい編集部】